国务院新闻办公室
中国图书海外推广计划

孔子

《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

主编 周宪 程爱民
周群 著
笠原 祥士郎 译

北陆大学出版会
南京大学出版社

《中国思想家评传》简明读本　日中文对照版

主编　周　宪　程爱民

周　群　著

笠原　祥士郎　译

孔子

北陆大学出版会
南京大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

孔子:日汉对照 / 周群著;(日)笠原祥士郎译.
—南京:南京大学出版社,2010.8
(中国思想家评传丛书简明读本)
ISBN 978-7-305-07532-2

Ⅰ.①孔… Ⅱ.①周…②笠… Ⅲ.①孔丘(前551～前479)—评传—汉、日 Ⅳ.①K222.25

中国版本图书馆CIP数据核字(2010)第165813号

出版发行 南京大学出版社
社　　址 南京市汉口路22号　　邮　编 210093
网　　址 http://www.NjupCo.com
出 版 人 左　健

丛 书 名 《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版
书　　名 孔　子
著　　者 周　群
责任编辑 田　雁　　编辑热线 025-83596027

照　　排 南京紫藤制版印务中心
印　　刷 南京市溧水秦源印务有限公司
开　　本 850×1168 1/32 印张6.375 字数158千
版　　次 2010年8月第1版 2010年8月第1次印刷
ISBN 978-7-305-07532-2
定　　价 18.00元

发行热线 025-83594756
电子邮箱 Press@NjupCo.com
Sales@NjupCo.com(市场部)

* 版权所有,侵权必究
* 凡购买南大版图书,如有印装质量问题,请与所购图书销售部门联系调换

《中国思想家评传》简明读本·日中文对照版

编辑委员会

主　　任　许　琳　张异宾

顾　　问　北元喜朗

副 主 任　马箭飞　周　宪　周　航

编辑委员　马箭飞　王明生　王　涵　左　健　田　雁
许　琳　孙文正　吕浩雪　张异宾　村田和弘
周　宪　周　航　周　群　金鑫荣　泉洋成
胡　豪　夏维中　徐兴无　笠原祥士郎
蒋广学　程爱民

主　　编　周　宪　程爱民

本　读　本

由南京大学出版社与北陆大学出版会共同出版。

日文版的版权属北陆大学出版会所有。

中日文版的版权属南京大学出版社所有。

序

古代中国は人類の文明にとっても精神にとっても、ゆりかごのようなものです。

ドイツ人哲学者カール　ヤスパース(Karl Jaspers, 1883～1996)の見解によれば、エジプト、メソポタミア、インド、中国の四大文明の発祥の後、紀元前800年から紀元前200年の間、おもに紀元前500年を中心に、世界中に連続した体系的な文明がふたたび生まれたということです。この時代のことを彼は枢軸時代(Axial Age)と呼んでいます。これらの文明には大思想家たちが現れ、彼らは人類や世界の根源的諸問題について思索し、解脱(げだつ)や超越の目標と方法について示唆したのです。たとえば、中国の孔子、老子、墨子、荘子などの思想家たちや、インドのウパニシャド(奥義書)や釈迦、ギリシャの詩人ホメロス、悲劇詩人のトゥキュディディス、哲学者のヘラクレイトス、プラトン、アリストテレス、さらにパレスチナの思想家たちが、中国、インドおよび西方諸国の、それぞれ相互に交流のない地域において、ほとんど同時に出現したのです。そして、彼ら大思想家たちが創り上げた思想的様式および世界的な宗教は、現代もなお人類に精神のよりどころとされていて、彼らは今もなお我々の生活とともにあるのです。

さて、中国五千年の文明の歴史を座標として、ヤスパースの視点を重ね合わせると、紀元前551年から紀元前479年の間に生きた孔子は、まさに中国文明がこの枢軸時代にさしかかったころの代表的人物であり、彼はこの五千年の中間点あるいは折り返し地点にあったと言えます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

黄河文明の発祥から孔子の時代に至るまでと、孔子の時代から我々の現代に至るまでは、ともにそれぞれ2500年前後を数えることができます。孔子が現われる前には、中国に思想というものはあっても思想家は存在しませんでしたが、孔子以降、中国にも古代思想家たちが次々と現れて、彼らは中華民族だけでなく全人類にとっても価値のある豊かな思想的遺産を残したのです。孔子が唱えた「故(ふる)きを温めて新しきを知る」①とか「信じて古(いにし)えを好む」②といった思想上の原則は、中国の、伝統を重んじるという姿勢に影響を及ぼしました。すなわち、古人の思想的遺産を尊重し、立ち止まることなく古人の思想を理解しそれを発展させ続け、その中から思考や宇宙・社会・人生問題に対応するためのすべを人々は獲得したのです。このことこそが、我々が今この『中国思想家評伝』簡明読本版(日本語版『中国著名歴史人物集』)を世に問う理由でもあります。

中国の悠久なる古代思想史を見渡すと、思想家たちが貢献した成果には深い造詣と高い価値があり、それは世界思想史上において独自の旗印を掲げるものとなりました。それら数々の思想は現代の中国あるいは世界にとっても、日々新しく生まれ、生命力にあふれたものと言えます。百家争鳴の先秦諸子、スケールの大きな含蓄のある漢や唐の経学③、親しみやすく幽玄な魏晋の玄学④や、知性を尽くした宋や明の理学⑤など、

---

① 『論語』「為政」(訳者注)。
② 『論語』「術而」(訳者注)。
③ 儒教古典の解釈学。(訳者注)
④ 『老子』『荘子』『易』を尊崇する学風。(訳者注)
⑤ 人間の道徳性や天と人を貫くことわり(理)を追求する新儒学。(訳者注)

どれも思想学術のあでやかな花であり、仏教の色即是空の悟りや道教の神仙修養は宗教的信仰の沃土（よくど）と言えましょう。そのほかにも、経世済民①の政治、経済思想や自然の理をも乗り越えようとする巧みの科学技術や工芸の道、風雅の真髄に迫り、彩りの落ちることのない文学芸術……これらすべてにわたって豊かな思想を醸（かも）し出しています。中国の思想はそれぞれが時には水と火の関係のように相容れることなく激しく論争し合ったかと思うと、さまざまな思想が合致し合い、道は異なれども同じところに行き着いたりしましたし、また、いろいろな学派が生まれ林立したかと思うと、それらが互いに啓発し合い、奥義を究めていったりしました。儒、仏、道の三教も論争のなかから融合し、さまざまな思想がともに行われて、対立しませんでした。このように、中国思想の成立は豊富で多彩なものであり、天人合一②、知行合一③、剛健中和④などの精神的伝統を貫きつつ、継承や解釈をしていきながら変遷し、一代ごとに研ぎ澄まされ、総合と新奇の特色を表し続けてきたのです。

中国古代思想史には、思想家とか思索者とか、哲学者などといった言い方や概念はなく、聖人、賢人、哲人、智者、諸子、大師などの呼称があるだけです。とはいえ、こうした呼称こそがまさに中国古代思想家の特徴を概括していると言えます。彼らの社会的身分は、たいていが教師か学者でしたが、それは彼らの思想が道徳と智慧（ちえ）を追求したものだった

---

① 世を治め、民の苦しみを救うこと。（訳者注）
② 人の行為は天と連動していることを強調する考え方。（訳者注）
③ 知って行わないのは、未だ知らないことと同じであることを主張した実践重視の教え。（訳者注）
④ 強く健やかでありつつ、異なる性質を持った者同士が交わること。（訳者注）

からです。もちろん、より広い範囲から見れば、中国古代思想は、政治、軍事、経済、法律、工芸、科学技術、文学、芸術、宗教など多くの文明的領域において、大きな貢献をしましたが、創始者や集大成者など傑出した人物の言論や著作、あるいは弟子たちによってまとめられた言行録などこそが中国古代思想の重要な内容なのです。中国人は、孔子以前にすでに、「功を立て」、「徳を立て」、「言を立て」るの「三不朽」といった、超越を追求するための道しるべを作り上げましたが、これら人類社会のためにうち立てた大きな功績、個人的道徳修行の完遂と思想、智慧、学説などのすべてはまさに不朽の歴史的遺産とも言えます。こうした意味から言えば、中国思想家たちの手による成果は、我々現代人が慣れ親しんだ職業思想家、哲学者あるいは宗教的先知をも大きく超えていると言えましょう。そして、我々が『中国思想家評伝』簡明読本を執筆するにあたっても、こうした基準に基づいて思想家たちを選びました。

さて、南京大学名誉学長の故匡亜明教授の監修を仰いで、南京大学出版社より出版された『中国思想家評伝叢書』は、中国20世紀以来、最も広大な中国思想家研究の成果と言えましょう。今回、簡明読本叢書の編集出版にあたって、まずこの200冊にもおよぶ『中国思想家評伝叢書』の労苦に深い敬意を表すものであります。この巨人の双肩に依りつつ、本簡明読本においても、学術的基礎を保持しながら、なおかつそこにいくらかの新鮮味を加えたつもりです。その新鮮味とは内容は深いままに表現は分かりやすくし、より広範な読者をも惹きつけるものにしたことであります。思索と読みやすい表現、生き生きとした物語と智慧……中国文化の「拡大」と文化のグローバル化を提唱する今日、この読本による古代中国思想家たちの紹介を通して、中国思想に関心を

持たれる読者のみなさんが、我々と古人たちとがともに直面する一つ一つの問題を掲げながら、古代の中国思想家たちと胸襟を開いた対話をされることを期してやみません。

編集委員会

2008年9月

目次(日文版)

序 …… 1
第一章　少年孔子の学問 …… 1
第二章　教えを興してから斉に到るまで …… 11
第三章　為政者としての経歴 …… 17
第四章　列国への周遊の旅 …… 22
第五章　晩年、魯国への帰国 …… 29
第六章　「天命を敬してこれを遠ざく」- 孔子の宗教観 …… 38
第七章　「仁者、人を愛す」- 孔子の道徳哲学 …… 46
第八章　「教えありて類なし」- 孔子の教育思想 …… 64
第九章　「己れを修め以て百姓を安んずる」- 孔子の徳治思想 …… 78
第十章　「文質彬彬(ひんぴん)」-孔子の文芸観 …… 91
第十一章　中華を潤し、その恩恵は世界に及ぶ
　　- 孔子の文化的影響 …… 104
参考文献 …… 115
訳者あとがき …… 116

目录(中文版)

序 …… 119
一、早年问学 …… 123
二、兴教与入齐 …… 128
三、从政经历 …… 132
四、周游列国 …… 135
五、晚年归鲁 …… 139
六、“敬天命而远之”——孔子的宗教观 …… 144
七、“仁者爱人”——孔子的道德哲学 …… 149
八、“有教无类”——孔子的教育思想 …… 160
九、“修己以安百姓”——孔子的德治思想 …… 169
十、“文质彬彬”——孔子的文艺观 …… 177
十一、泽溉中华　惠及寰宇——孔子的文化影响 …… 185

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

第一章　少年孔子の学問

孔子は名を丘（きゅう）、字（あざな）①は仲尼（ちゅうじ）といいます。春秋時代の魯国（今の山東省西南部にあたる）の人で、中国歴史上第一の偉大な教育者であり、最も重要な思想家であり、儒家の創始者です。孔子は魯の襄公二十二年（紀元前551年、旧暦八月二十七日）に生まれ、魯の哀公十六年（紀元前479年）に没しました。

孔子は殷朝王室の子孫ですが、彼の父親は叔梁紇（しゅくりょうこつ）（字は叔梁、名は紇）といい、魯国の勇敢な武人として、数々の戦功を挙げた人物でした。魯の襄公十年（紀元前563年）、晋国は魯国など数国の諸侯と連合して偪陽（ふくよう）（今の山東省棗庄（そうじょう）市の南）に進攻しましたが、叔梁紇もこの偪陽包囲戦に参軍しました。偪陽守備軍は連合軍を城内に誘い込むと、城門を閉じ連合軍を壊滅しようとしましたが、この連合軍の危急存亡の際に、叔梁紇はひとり前方に飛び出し、退路を断たれた門をこじ開け、連合軍を無事に撤退させました。連合軍を率いる将軍の孟献子（もうけんし）は彼のことを「力あること虎の如し」と称賛しました。また、その七年後、魯に攻め入ってきた斉の軍隊が国境に迫るさなか、叔梁紇は三百名の兵士をひきつれて、夜陰にまぎれて斉軍の囲みを突破し、魯国の貴族である臧（ぞう）氏兄弟を援軍に送り届けると、ただちに再び戦場にひき返して防衛作戦に加わり、斉軍を退却させることに成功しました。叔梁紇はその勇敢

---

① 古代中国の男子は二十歳になると、名前の意味をもとにつける別名を「字」と言う。

さによって諸侯に名を馳せ、陬邑の大夫となりました。叔梁紇は晩年に顔氏（名は徵在）を娶り、ほどなくして孔子が生まれましたが、孔子三歳のとき、叔梁紇はこの世を去りました。そのため、顔氏は幼い孔子を連れて陬邑をあとにし、魯国の都の曲阜にもどり、城内の南西部地域にある闕里というあたりに移り住みました。

孔子が母に連れられて曲阜に移り住んだことは、孔子の成長のためにはむしろ有利な文化的環境をもたらしました。曲阜は周文王の息子の周公が封じられた都であり、周公の長男の伯禽が魯国に向かう際に、多くの文物書物を持ち込んだために、周王朝の礼制を実行している都市として天下に名を馳せ、曲阜は周王朝の都である洛邑（今の河南省洛陽市）に次ぐ文化の中心となっていました。当時、魯国を訪れた者がこの豊かな文化や書物を見ると、「周の礼はすべて魯の国にある」と驚きをもって語ったといます。このような濃厚な文化的雰囲気のなかで、孔子は幼いころから良好な礼儀文化の薫陶に浴してきました。孔子の周礼に対する敬意は魯国の都である曲阜のこうした文化的環境と関係があります。また、孔子は武人の家庭に生まれましたが、当時の武人は礼儀を学ばなければなりませんでした。幼いころの孔子は自然なかたちで大人たちが祭祀に用いる俎豆①などの祭器を並べて、礼儀遊びをしました。このように、孔子は幼いころからよく礼儀を学び、伝統教育を受けるのに都合がよかったようです。また、孔子は母とともに生活をし、子供のころに貴族の地位を失うことによって、たくさんの粗雑なことを学びました。幼い孔子は清貧な生活を送ったのですが、こうした経験を

---

① 供物を置く台と高坏。（訳者注）

通して孔子は、世俗的な事柄に対する理解も深めたのです。

孔子十七歳のとき、母親は過労のため病気になり帰らぬ人となりました。母の死は、孔子にとって大きな心理的衝撃であったに違いありません。母親の顔徵在は、息子への教育を重視し、父の叔梁紇が亡くなると毅然と曲阜に向かい、幼い孔子に良い教育的環境を与えたのです。母は懸命に働きながら孔子を啓蒙し、父親の愛の分までとあふれるほどの母親の慈愛によって孔子の心に潤いを与え続けたのです。その母親の死によって、孔子は生活と精神の寄る辺を失い、若くして自立した人生を歩むほかはありませんでした。孔子の幼少の頃からの聡明沈着さは、母を埋葬する際にも見られました。母が亡くなると、孔子は父母を合葬しようとしましたが、三歳のときに父を失ったため、父の墓の場所が分かりません。そこで孔子は父親の墓の場所を誰かに聞くことにし、母親の棺桶を街角に放置しておき、道行く人の注意を惹くことにしました。すると、足を止め見物している人の群れの中から曼父と名乗る人の母親が出て来て、父の墓は曲阜の東の防山の北面にあることを教えられ、孔子は父母を合葬できたのでした。

少年孔子は日々の生活の中からいろいろな人生の道というものを悟りました。特に、ある事件は孔子に大きな影響を与えました。それは、

孔子が母を亡くしてすぐのころ、魯国の大夫である季孫氏が貴族たちの宴会を主催したのでしたが、これは孔子が上層の名流階級に仲間入りをする絶好のチャンスでした。しかし、名の知れた武人を父に持つ孔子が喜び勇んでその宴(うたげ)の場に向かうと、季氏の家臣の陽虎(ようこ)①に「季家の宴に招待しているのは地位のあるものだけじゃ、お前などの来るところではない」と追い返されてしまったのです。この事件は孔子に大きな衝撃を与え、人は親や先祖の功労によってではなく、自分自身のたゆまぬ努力によらなければならないことを悟らしめました。同時に、孔子は処世の進退の道というものを知り、彼は「是(これ)に由(よ)りて退いた」②のです。ここでのいわゆる「退く」とは、ただ季氏の屋敷から退出したというだけではなく、人生の態度という意味も含んでいるのであり、こうした経験により、孔子は「礼」への敬意と遵守(じゅんしゅ)について考えるようになったのです。

早くに相次いで両親を失ったことは、若き孔子の生活に大きな影響を与えました。孔子はいろいろ雑多な仕事をおこない、自らの労働によって生きていかなければなりませんでした。しかしその一方で、この苦しい生活環境は孔子の意志を鍛え、彼はさらに苦しみに立ち向かって励み、努力を怠つてはいけないという精神を身に付けました。孔子は若くしてよく学びました。学問の中身は当時の必修科目であった礼、楽、射、御、書、数の「六芸(りくげい)」、すなわち、礼儀、演奏、弓、車、書、計算などでした。孔子は無心に学びました。例えば、曲阜城内には、魯国の始祖であ

---

① 春秋時代の魯の政治家。三桓氏の一つ、季孫氏当主の季孫斯(季恒子)に仕えた。昭公の時代の紀元前505年,季孫斯に反旗を翻して魯の実権を握る。(訳者注)

② 『史記』「孔子世家」

る周公旦を祭った太廟があり、その中に豊富な歴史的文物が保存されていますが、孔子はそこで礼に詳しい人を見つけると熱心に教えを請うのでした。彼は太廟に入ると、いつも質問ばかりするので、ある人は「叔梁紇のせがれが礼に詳しいなんて本当か。彼はまだ質問しなければ分からないことがいっぱいだよ」などと言ったりしました。この話は、孔子には特定の教師はいないが、謙虚によく学んだということと、当時から、すでに礼に詳しいことで有名だったということを示すものです。礼と同じように、音楽についても、孔子は熱心に学びました。師襄などの有名な音楽教師について琴を学び、音楽を鑑賞しました。孔子は後に斉国に行った時、斉の太師と音楽について語り、「韶」の音楽を聞き、その美しい旋律に陶酔して、肉のうまさも忘れるほどだったといいます。そのほか、孔子は弓や車などの武術にも長けていました。孔子の名声が世に広がってから後も、孔子は博学ではあるが、特別に得意なものがないなどと批判する人もいました。しかし、孔子は弟子に「わたしはなにをやろうか。御者をやろうか。弓をやろうか。やはり、わたしは弓をやろう」と言ったというのです。孔子の御者の技術はとても優れていましたが、同時に弓の名手でもあり、孔子が弓を射ると、見物の人だかりで壁ができるほどにごったがえしたといいます。このように技芸の基礎に精通しただけでなく、孔子はまたすすんで古代の経典である『詩』、『書』、『礼』、『楽』、『易』、『春秋』を学び、博学多才の文武に優れた学者でした。

十九歳前後のころ、孔子は亓官氏①と結婚し、翌年息子が生まれまし

① 「亓」は「其」の古字。（訳者注）

た。父の叔梁紇に軍功があり、孔子自身も礼に詳しく有名になっていたので、長男が生まれると、魯の昭公は孔家に鯉一匹を贈りました。孔子は君主から賜物を戴くことを光栄に思い、このことにちなんで息子を孔鯉と名付けました。字は伯魚です。このころ、孔子の生活は比較的苦しい時期であり、倉庫管理の出納係とか放牧の牛や羊を管理する程度の役人でした。こうした「鄙事①」にも、孔子はまじめに行い実績をあげました。倉庫管理の出納係での会計は正確でしたし、彼が管理していた放牧地には草が生い茂り牛や羊は肥えていました。同じころに、孔子は祖先祭祀や葬式を行う司儀になりました。これが「儒」です。これらは卑賤な職業でしたが、孔子はそれでもまじめに行い、「喪の事は敢えて勉めずんばあらず(弔い事にはできるかぎり勤める)」②と言いました。孔子の行った儒は、伝統的儒者のような礼儀形式にとらわれたものではなく、道義を優先し、道徳学問に富んだ「君子儒」であり、その意味で、孔子はまさに儒学の創立者です。

周王朝の都、洛邑は当時の中国のなかでも最も重要な政治・文化の中心地であり、曲阜から洛邑に向かう道のりは、孔子の人生の道のりの中でも最も重要な道のりでした。当時、魯国の貴族、孟僖子の子である南宮敬叔が孔子の弟子になると、孔子とともに洛邑に行かせてもらうようにと魯の昭公に願い出ました。魯の昭公は南宮敬叔の願いを受け入れ、車一両と馬二頭と従者一人とを与えました。孔子は洛邑に着くと萇弘に音楽を学んだりするなど、賢者を訪ねて教えを求め歩きま

① とるに足らないつまらない仕事のこと。(訳者注)
② 『論語』「子罕」

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com